

韓国の大邱でこのほど開かれたバイオの国際会議「第15回インターナショナル バイオテクノロジ シンポジウム アンド エグジビション」(IBS2012)で、シクロケムの生田直子主任研究員がポスター発表部門の最高賞を受賞した。応募数1011件の中から最も優れた内容と評価された。

同ポスター発表は、同社の寺尾啓二社長、共同研究先の金沢大学理工学研究域自然システム学系の松郷誠一教授との連名

IBS 2012 ポスター発表部門 最高賞

シクロケムが受賞

によるもの。タイトルは、「Characterization of stabilized R(+)-lipoic acid by complexation with cyclodextrin(α)- α -リポ酸のシクロデキストリンによる包接安定化)。

内容は、機能性食品素材として注目されていないが不安定なために使用

α リポ酸の安定化研究成果で



最高賞を手にするシクロケムの寺尾啓二社長(左)と神戸ラボの生田直子主任研究員

た。扱にくかった天然型のR体だけをサブリに利用できるようなった画期的な発見が今回、評価対象となった。

されてこなかった天然型 α リポ酸R体を、環状オリゴ糖である γ -シクロデキストリンで包接することで、これまで課題であった安定化に成功。水への溶解性や抗酸化能など改善された特性を科学的データとして示した。 α リポ酸はサプリメントを中心に、ラセミ体が販売されているが、不安定なため、